

THE ピックアップ ラコルタの取り組みを紹介！

テーマカフェ 吹田の街なかの生物多様性



オンラインでのご参加もありました

NPO 法人すいた市民環境会議理事の平 軍二さんをゲストにお招きし、テーマカフェを開催しました。ベッタタウンとして開発が進んだ吹田市内には、意外と知られていませんが、貴重な野鳥や植生が見られます。平さんからは「レッドリストすいた 2021 ～守りたい吹田のいきものたち～」など、吹田市内でされている調査を紹介して頂きました。都市化した暮らしの中で、人と生物のつながりを考える良い機会となりました。

●開催日：6月25日(金)

自治会活動に役立つ SNS入門講座



申込多数により追加開催もしました

2日間にわたる本講座では、主にLINEの使い方について学びながら、実際の活用事例などを講師のNPO法人きんきうえぶさんからご紹介いただきました。2日目には、各自でお持ちいただいたスマートフォンを使用し、LINE公式アカウントの開設にもチャレンジしました。みなさん熱心に受講させていただきでなく、定員をはるかに超えるお申込みがあったことから、各自治会でのSNS活用に対する関心の高さが伺えました。

●開催日：7月29日・8月5日(木)

LINEで
ラコルタと
お友達！

公式アカウントはじめました！

ラコルタの情報をいち早くお届けするため「LINE 公式アカウント」を開発！ぜひ、「友だち追加」をお願いします。

【友だち追加やり方】

LINEの「友だち」追加画面を開いて「検索」または「QRコード」のいずれかで登録してください。

●検索の場合

以下のIDを検索してください。
@892batyn

●QRコードの場合
以下のQRコードを読み取ってください。



ラコルタの講座・イベント

市民公益活動団体向け！コロナ禍でも活動を広く発信できる！
オンラインツールを使いこなそう！

①オンライン会議編

10月14日(木)
14:00～17:00

・オンライン会議システム ZOOMの基本
・ホストをやってみよう、など
講師：ラコルタ職員

②権利問題編

11月9日(火)
19:00～21:00

・動画配信時に気を付けておきたい著作権や肖像権など
講師：奥居 武さん

③ライブ配信編

11月25日(木)
19:00～21:00

・配信ソフト OBSstudioを使ってライブ配信をやってみよう！
講師：ラコルタ職員

●対象：吹田市内の市民公益活動団体 ●定員：各回15名(多数抽選)
●お申込み：各回7日前までにラコルタのWEBサイトよりお申込みください。

お申込み・お問い合わせは
ラコルタまで

TEL:06-6155-3167 FAX:06-6833-9851 Eメール: info@suita-koueki.org
※費用が明示されていないイベントは無料。※申込期限の記載がなければ前日まで。

編集
ノート

(つらそう・・・)そこに手を当てやさしく撫でてあげると、気持ちが落ち着き不安や緊張がほぐれてくれることがある。誰でもできそうな“手当て”という癒しの方法。手当てとはケガや病気の処置だけではないようです。災害時やこころという場面で実践できるよう心掛けたいです。人にふれるのが難しいご時世ですが・・・(茨木)

＜発行責任者＞ 柳瀬真佐子
＜編集スタッフ＞
茨木由美・入江陽子・春貴勇力
森戸秀次・山本泰秀

ラコルタ吹田 検索 <https://suita-koueki.org> アクセス 阪急電車千里線「南千里駅」改札出て左、千里ニュータウンプラザ6階

Newsletter Vol.36
※年4回発行(3月・6月・9月・12月)

ラコルタ

吹田市立
市民公益活動センター

VOL.36

出会う→集う→育てる→実る

Newsletter 2021年9月1日号

○表紙：「Be Social」第21回・奥居 武さん

○中面：特集 / 誰ひとり取り残さない防災

○うら：ラコルタの取り組み、イベント

「市民公益活動」は市民が自発的に行う社会貢献活動です。

市民公益活動センター(愛称：ラコルタ)は市民の力で

吹田市をより良いまちにするため、これらの活動を支援しています。



私たちが暮らす
地域や社会の事を
他人事ではなく自分事にする。
そういった“ソーシャルな生き方”の
魅力をお伝えします。

おくい たけし
第21回 奥居 武さん
一般財団法人 千里パブリック
デザイン 理事長

5歳から千里ニュータウンで育ち、ニュータウン研究者として活動。長年勤めた広告会社を退職後、今年2月に同法人を設立。千里ニュータウンの魅力を伝える企画展やセミナーを開催。

<https://senri-pdf.org/>



形ではなく
心を伝える

■自分のやるべきこと
千里ニュータウン(以下、NT)は、日本初の大規模NTとして色んな人たちの思いが込められてきました。一方で、まちびらきから60年を迎えようとする中で、建て替えが進み、地域を支えてきた方たちも徐々に引退されています。まちの記憶を継承・発展させていくのが、退職後のやるべきことだと思ひ、財団法人を立ち上げました。

■人生とのシンクロ
「なぜそんなに千里NTが好きなんですか？」と、よく聞かれるのですが、たまたま自分の人生とシンクロしちゃったんですよね。まちと共に成長し、くたびれ、再生のチャンスを得ているという感じ。人や建物が入れ替わっても千里NTらしさを大事にしたいです。

■千里NTの魅力
そもそも、15年前に吹田市立博物館で開催された千里NT展に関わったのが、活動のきっかけです。この特別展に関わった市民の皆さんが、熱心に楽しく千里NTのことを語り合っている光景に驚きました。「便利だから、緑が多いから」という理由で、居住地に選ぶ人も多いですが、みんながまちのことを語り合えるオープンでフラットなコミュニティが、千里NTの魅力だと思っています。

学ぶ
ボランティア・NPO 初歩講座
興味がある方、活動はしているがもっと理解を深めたい方など。「出前講座」も承ります。お気軽に！
●毎月開催！●定員 10名

やってみたい！の聲に
お応えします！
見つけよう！
自分にあった
ボランティア

単発！
短時間！
体験
ぱちボラ
働きざかりの方や家事・勉強に忙しい方など週末や余暇の新しい過ごし方として。初心者の方でも気軽に参加できます！
(例)お弁当作り・喫茶・竹林整備など

「ボランティア・NPO 初歩講座」「ぱちボラ」のお申込み・お問い合わせはラコルタまで

出会う→集う→育てる→実る
市民公益活動センター

ラコルタ | 吹田市立市民公益活動センター 〒565-0862 吹田市津雲台1丁目2番1号 千里ニュータウンプラザ6階
TEL 06-6155-3167 FAX 06-6833-9851 Eメール info@suita-koueki.org

指定管理者 NPO 法人 市民ネットすいた

誰ひとり取り残さない防災

災害時のスペシャルニーズ

社会福祉法人大阪ボランティア協会が発行する「災害時のスペシャルニーズ支援ハンドブック」では、①障がい者・難病者編、②子ども編、③外国人編の3部にわけて、特別な配慮を必要とする人に対する支援のあり方がまとめられています。

当事者や支援者の声を反映したハンドブックは、「誰ひとり取り残さない防災」を実現させるために、欠かせない情報が掲載されています。ハンドブックの発行に携われた、山野上 隆史さんと、湯井 恵美子さんのお二人に、お話を伺いました。

“多言語支援”と地域防災

とよなか国際交流協会は、災害時多言語支援センター設置に関する協定を豊中市と締結しています。2018年の北部地震では、10言語による情報発信に加え、相談会を開催しました。また、日本語教室を運営する市民ボランティアの協力を得て、被災状況を把握するアンケート調査を実施しました。その結果「怖くて家に居られない」、「眠れない」といった声のほか、地理感覚や日常的な交流がないために、「川の近くに住んでるので津波が心配」という不安や「外国人の自分は避難所に行っていないのかわからない」という状況があったことが明らかになりました。

そういった経験から、どのような情報を発信するかだけでなく、外国人住民と地域との関係をどう築いていくかが重要だと考えるようになりました。地震後、自治会の防災訓練に、外国人住民と参加する機会を持ちました。当初、地域住民は「自分のまちにも外国人が住んでいるの?」という反応でしたが、消火体験やバケツリレーを一緒に行ううちに、お互いが地域防災の担い手という気づきが生まれました。

言葉の壁があっても、顔をあわせる機会や何らかのつながりがあれば、そのこと自体が防災・減災につながっていくと思います。

(公財)とよなか国際交流協会
事務局長 山野上 隆史さん



▲ハンドブックは、大阪ボランティア協会のWEBサイトからダウンロードできます。

“障がい者”に寄り添う福祉防災

災害でいのちを亡くす高齢者、障がい者が後を絶ちません。私は知的障がいのある子の母ですが、障がいの有無に関係なく、違いを認め合う多様な社会の中で、等しいのちと尊厳を守ることが必要だと思っています。

近年、地域主体で取り組む「地区防災計画」づくりが全国で広がっていますが、要援護者(高齢者、障がい者等)への支援といった視点は欠かせません。

ある東日本大震災の被災地では、支援者も含めて犠牲になってしまった経験から、みんなで助かるために議論を尽くし、要援護者は自治会に入り、防災訓練にも参加しています。そのことにより、要援護者が災害時に訓練通り自宅玄関まで出ていれば地域の支援者が避難支援をする、というルールが「地区防災計画」に盛り込まれました。一人ひとりのいのちを守ることが最優先であり、支援者も要援護者も一緒に助かることが大切だと思います。

支援者の役割は、防災や障がいに関する専門的な知識だけでなく、当事者が自分のいのちと尊厳を守るために、より良い決定ができるよう、根気強く対話し寄り添うことです。「みんな違ってみんないい」という意識を地域で育むことこそが、災害時の共助に向けた一歩となると考えます。

(一社)福祉防災コミュニティ協会
上級コーチ、防災士 湯井 恵美子さん

災害対策に関する法令は、過去の大規模な地震や水害等を経てたびたび見直されてきました。その中で特に課題となっているのが、高齢者や障がい者、乳幼児など、避難行動や避難生活において、特別な配慮を必要とする人たちへの対応です。

2021年5月の災害対策基本法改正では、近年の台風や豪雨災害の犠牲者のうち65歳以上の高齢者が占める割合が高かったことを受け、避難情報の適正化や個別避難計画(※1)作成の努力義務化が講じられました。この他にも、国や自治体の災害対策では、難病患者

わたしの防災、みんなの防災

スペシャルニーズが重視される一方で、「特定の人への特別な配慮」という捉え方をしてしまうと、どこか他人事で終わってしまうような気がします。生活や働き方などが多様化する中で、防災にも多様性の視点を持つことが必要ではないでしょうか。

ヤフー株式会社が2019年に開設したWEBサイト「防災ダイバーシティ」では、「人の数だけ、備えがある。」というコンセプトのもと、一人ひとりに合わせた防災情報が提供されています。同社で災害支援の業務を担当されている、安田 健志さんにお話を伺いました。

一人ひとりに合わせた“防災情報の提供”

ヤフーでは、災害に対する取り組みとして「発災前」と「発災後」の、それぞれに必要なコンテンツを提供しています。発災後については、人・物・お金などを被災地へ届けるような仕組みを提供しており、発災前については、防災意識を高めてもらうためのコンテンツなどを提供しています。

ヤフーが運営する「防災ダイバーシティ」は、発災前に活用いただくコンテンツの1つです。自分に関連したキーワードを選んでいただくと、100種類以上ある「防災カード」から、その方に適した備えを提案してくれる仕組みになっています。

このサイトは、東日本大震災が発生した2011年3月11日～17日に宮城県、岩手県、福島県での「Yahoo!検索」で検索されたキーワードの分析結果がきっかけでうまれました。

分析データからは、性別や年齢、家族構成、生活環境によって必要とする情報に違いがあることが判明しました。

例えば、「日本在住歴の長い外国人でも、高台の意味がわからず、通訳してほしかった」「愛犬のいるおうちでは、犬用の防災グッズが必要だった」「固いものが食べられないおばあちゃん、やわらかい保存食が欲しかった」など、みんなが必要とする備えもあれば、その人だからこそ必要な備えもあるということが見えてきたのです。

このサイトを通じて個々の防災意識を高めてもらうだけでなく、日頃の備えへと繋げていただき、人命に貢献できるメディアにしていきたいと考えています。

や妊産婦、外国人等に対し、その特徴に応じた備えと支援の必要性が明記されています。

今号では、災害時の多種多様なニーズに対する市民レベルの取り組みを紹介しながら「誰ひとり取り残さない防災」のあり方について考えてみます。

(※1) 個別避難計画：高齢者、要介護者、障がい者等が、災害時どのような避難行動をとればよいのかについて、一人一人の状況に合わせて作成する個別の避難行動計画



TRY! これが、わたしの防災!

日頃ラコルタをご利用いただいている方などに、「防災ダイバーシティ」のサイトから防災カードを引いていただきました。

Tさんの場合 (30代/女性)

#生理用ナプキンを使う
#自営業・個人経営
#車を持っている
#小学生以下の子ども

生理用ナプキンなどがあれば下着の洗濯回数を減らせるということが知れて、参考になりました。

Yさんの場合 (60代/男性)

#スマホをよく使う
#町内会に所属
#花粉症
#たばこを吸う

どういう備えをしておけば良いか考えるきっかけやヒントになりました。